

令和6年度第3回図書館協議会議事録

1 開催日時 令和7年3月13日（木）午後2時～午後4時

2 開催場所 浦安市立中央図書館2階 視聴覚室

3 出席者

（委員）松本委員長、西村副委員長、高橋委員、新井委員、堀内委員、館委員、齊藤委員、日比谷委員、花村委員

（事務局）中央図書館長、中央図書館職員6名

4 傍聴人 なし

5 議題

報告事項

- （1）令和6年度図書館自己点検評価について
- （2）ファブスペースの利用状況について（令和6年3月23日から令和7年1月まで）
- （3）その他

6 議事の概要

報告事項

- （1）令和6年度図書館自己点検評価について、事務局より報告を行った。
- （2）ファブスペースの利用状況について、事務局より報告を行った。
- （3）その他、委員から情報提供及び図書館運営に関する意見が表明された。

7 会議経過

報告事項

- （1）令和6年度図書館自己点検評価について、事務局より報告を行った。その際に表明された意見（質問）は次のとおり。

（委員）図書館の利用はコロナ前に戻ってきていると感じる。テレワークの普及で鉄道等の利用者は減少していると聞くが、来館者増加の理由の一つに、テレワークで図書館を利用しているということはあるか？

（事務局）貸出は減っているが、来館者は数字に表れて来ない。来館者を増やす努力をしている。テレワークをしている利用者があるかは不明だが、館内で書類作成などを行っている人はいるようだ。

（委員）貸出冊数が減っているのはどこの図書館も顕著であるが、アメリカなど他の国に比べると、日本人の読書人数は非常に少ない。図書館には読書の意義をとらえて、

本を読む働きかけを行ってもらいたい。

(事務局) 施設の快適性を推進しているところであるが、図書館として読書の意義を推進する事業をすすめていきたいと思っている。今年度は若い世代への読書会活動を促すため、図書館主催の読書会を開催した。少人数ではあるが、定員数の応募があり、参加者がお互いに本を紹介しあった。

(委員) 読書会は書店との連携や、地域全体で取り組むアイデアもある。

(委員) 書店が全国で減っていて、近隣に図書館もなく、通信販売でしか本を手に入れられない地域もある。身近に本を手にとれる環境が整備されていない中で、読書の普及を目指しても無理があるのではと思う。子どもたちにとってはそういった環境が学校図書館となるが、現状では不十分だと感じる。環境の整備が必要である。

(2) ファブスペースの利用状況について、事務局より説明を行った。その際に表明された意見(質問)は次のとおり。

(委員) ファブスペースの設置は日本の図書館で見るとあまり多くない。

(委員) イベントに2回参加し、スマートフォンスタンドとミニマスコットを作成し非常に楽しかった。技術スタッフの補助があったおかげで、あっという間に作ることができた。ただ定員が4人のため、申込が争奪戦である。また、実際の操作や内容も難しいと感じた。

(事務局) 人気のあるイベントはその日のうちに定員になってしまうこともあるため、多人数が参加できる企画も検討している。また委員が参加したイベントはレーザーカッターや3Dプリンタを使用したもので、比較的難易度の高いものである。カッティングマシンや製本機など操作が易しい機器のイベントも実施している。様々な機器を取りまぜながら、いろいろな年代の方が参加できるようにしたい。また体験会については、次に自分が使うときに最後まで自力で操作できるような内容としているため少人数制としている

(委員) 小中学生にいろいろな体験をさせることが必要と考える。子どものキャリア教育に向けた講座を開いてほしい。例えば、3Dプリンタが世の中でどういうことに役立っているかを知ることのできるようなきっかけ作りをしてほしい。

(委員) 学校の先生方にも学んでもらえると効果的ではないか。先生への働きかけもしてほしい。

(委員) 新たな利用者や利用層は増えているか？

(事務局) 増加していると感じる。図書館にこういう場所があるのですねという声を聴くこともあり、これまで図書館に来る習慣がなかった方の来館も見られる。

(委員) 教育者にむけての働きかけやアプローチはしているか。

(事務局) 学校との連携については検討中である。市内の小中学校へ1月に利用案内を送付したほか、中学校技術科の先生へコンタクトをとった。その他の教科についてはこれから行っていきたい。

- (3) その他、事務局より、第四次浦安市子ども読書活動推進計画の策定について取組内容
と今後のスケジュールを説明したほか、3月中に実施する図書館イベントについて案内した。また、委員から以下のような意見や情報提供が表明された。
- (委 員) 子どもの読書に関して、浦安市の不読率について千葉県内の他市と比較した数値
はあるか。
- (事務局) 県内の不読率の比較はしていないが、読書が好きな子どもの割合としては、浦安
と国と千葉県を比較すると、全体的に国が低く、中学3年生は千葉県と浦安が僅
差、小学6年生では浦安が最上位である。
- (委 員) 新聞で見たが、視覚障がいなど、特別なニーズがある子どもを対象とした資料を
集めた「リンゴの棚」のようなものは浦安でもあるのか。
- (事務局) 利用者の目につきやすい中央カウンターの前、一般展示スペースの横にバリアフ
リー図書の展示を行っている。LLブックや点字絵本、やさしい言葉で書かれた
利用案内等を置いている。
- (委 員) 車イスの人も使えるのか。
- (事務局) 低い机を使った展示のため、車イスの人を含めて誰でも手にとれる場所である。
- (委 員) 特別支援学校の開校も予定されており、より豊かな生活が送れることを願う。
- (委 員) 特別支援学校の図書館は、地域の支援が必須となると思う。
- (事務局) 市内の特別支援学級については、職員を派遣してよみきかせを行っているほか、
団体貸出として「布のえほん」の貸出をしている。新しい学校についても連携し
ていきたい。
- (委 員) ワークスペースで読書会の開催中にほかの利用者から批判を受けたことがあり、
にぎわいのあるフロアの周知の難しさを実感した。
- (事務局) 今年度の課題として、にぎわいのあるフロアの周知をあげているところである。
会話が出来る場所など、ポスターの掲示で利用者へ周知を行った。
- (事務局) 児童室で、声を出して絵本をよみきかせしてよいかと親から聞かれたことがある。
親の世代は、図書館は静かにするところという認識があるのかもしれない。
- (委 員) 浦安の図書館へは毎年学生を連れて見学に来ていた。手本にすべき図書館として
紹介したが、職員がどのような知識をもっているか、そのために組織が研修等
を行い、職員を育てていくことが大事であると思う。人とコミュニケーションが取
れる場所としての図書館に、浦安がなってほしい。
- (委 員) 学校図書館の現状調査によると、全国では、「司書を小中学校に全館配置」とあ
っても、1人で複数校を担当するような現状もあるそうだ。また災害と図書館の
関係に関心があるが、地震と豪雨による被害を受けた被災地の図書館は、図書館
の運営を行うための正規職員を募集しても応募がないという現状があると聞い
た。
- (委 員) 図書館が提供したいサービスと市民が求めるものの価値の差があることを感じて

いる。自治体も企業も同じだが、どのように伝えていくかが課題であると思う。

(委 員) 寄贈システムの啓発としてポスターを掲示しているが、実際に効果があるか知りたい。

(事務局) 1 タイトルあたりの蔵書数については、購入数を増やすことは難しいと考える。寄贈でいただければ受け入れて提供できるが、指定したタイトルを大々的にお願いすることは出版社への懸念もあり、現状では館内ポスターの掲示のみとしている。利用者がそれを見て本を持ってきてくれることがあるため、効果はあると感じている。

(委 員) 大熊町に「学び舎ゆめの森」という施設がある。学校と公共図書館と認定こども園が共存するような施設で、授業時間との間にチャイムがない。子どもたち同士で本を勧め合う交流があるようで、共感した。

(委 員) 本の内容を紹介した要約サイトを利用しているが、本に触れたいけれどどうい本を手にとればよいのかわからない人への読書のきっかけとなると思う。

(委 員) 図書館には職員を育てる力、人材育成計画が必要であると思う。浦安では、そういった計画がしっかり作られていて良いと思う。外部研修への参加だけではなく、いろいろな形で職員が外に出て、そこで得た情報を職場に持ち帰ることも大事だと思う。

以上